

文学館だより

平成29年 9月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 責 日 高

若竹の伸びゆくごとく子ども等も真直ぐにのばせ身をたましひを
大正12年秋ごろの作 『黒松』

牧水生誕祭 8.24(木) 延岡総合文化センターにて



8月24日、牧水は生家縁側で「ことんと音をさせて生まれ」ました。今から132年前になります。

この生誕の日に延岡顕彰会、延岡東ロータリークラブ両主催、牧水生誕祭が行われました。当顕彰会から那須会長と文学館職員が出席しました。

牧水生誕100周年を機にスタートした生誕祭。今年で32回を数えています。左写真は牧水銅像前で献酒をしている風景です。(8.25 タ刊デイリー掲載)

当日向市東郷町若山牧水顕彰会においては今月17日、牧水の命日に牧水祭を開催します。みなさまのお越しをお待ちいたしております。

第67回牧水祭 ごあんない

期 日 9月17日(日) 牧水の命日 没後89年

第1部 歌碑祭 牧水生家横夫婦歌碑
9:30 ~ 10:00 (受付は9:00~)

第2部 牧水を偲ぶ会 牧水公園ふるさとの家
10:15 ~ 13:00
坪谷小学校児童による牧水の歌斉唱 ほか
中村佳文氏(宮崎大学教育学部准教授)と伊藤一彦館長との対談
懇談会(参加者は500円の負担をお願いします)

詳細は文学館にお尋ねください 0982-68-9511

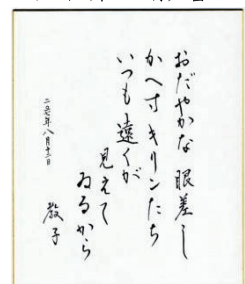


歌人 田中教子さんご来館

先々月に続き、先月も歌人が来館されました。
今回ご来館いただいたのは、万葉研究家でもある田中教子^{のり}さん。
牧水研究会に出席されるご予定の中、時間を作ってくださいました。
5メートルにも及ぶ牧水誕生のぼりに圧倒され 繰り返し見上げていらっしゃいました
論文「牧水の恋と死ー若山牧水と万葉集ー」では、牧水の歌における万葉集の影響につ
いて詳しく論じていらっしゃいます。

例に漏れず、今回も色紙をお願いしたところ、快くお引き受けいただき、右の歌を書いてくださいました。書き出しのとおり、穏やかな優しい文字はまさしく田中さんのお人柄を表しているかのようです。

文学館色紙コレクションにまた一枚加わりました。



第7回牧水・短歌甲子園

横浜翠嵐高校初優勝に輝く

団体戦優勝	神奈川県立横浜翠嵐高等学校（出場回数 2回）
団体戦準優勝	宮崎県立延岡高等学校（出場回数 4回、優勝1回、準優勝初）
団体戦3位	延岡学園尚学館高等部（出場回数 7回、3位初）
団体戦3位	宮崎県立宮崎商業高校（出場回数 6回、優勝1回、準優勝1回、3位2回）

牧水賞・・・入場者の投票により最多得票作品に贈られる賞です

強がりの言葉並べる君を見て守りたくなる小さな背中

中川 蘭子 日向高校

若山牧水記念文学館長賞

アボカドの種をくり抜くその液を愛するようにスプーンの舟

山本菜々香 金沢錦丘高校

日向市東郷町若山牧水顕彰会長賞

鳥はいつ自分が飛べると知るのだろう屋上に踏み込むときの風

神野 優菜 福岡女学院高校

俵 万智 賞

屋上のフェンスに二人もたれてる「七月六日は何の日だっけ」

古野間百花 東京家政学院高校

大口 玲子 賞

暁の日本海に着弾すイカ釣り船の真上を越えて

高橋このみ 金沢錦丘高校

笹 公人 賞

担任と母が衝突する真夏ただ眺めおり海王星より

今東壮之晟 宮崎西高校

8月19（土）～20（日）両日にわたり、日向市中央公民館を会場に12校の高校生たちが一堂に会しました。今年の団体戦題詠は「海」「屋上」「恋」「矢」。昨年を超える熱戦が続き、審査員の票も割れるほど見応えある展開が繰り広げられました。同点で迎えた準決勝進出はなんとじゃんけんとかじ引きが登場。昨年の優勝校宮崎商業が駒を進めるという場面もありました。県内常連校が勝ち進む中、横浜翠嵐高校が2年目にして初優勝を飾りました。揺るがぬ思いを積極的に主張する3年生と純粋かつストレートに思いをぶつける2年生の姿が人柄と相まって好感もてる光景でした。

そして、今年目を見張る活躍を見せてくれたのが短歌甲子園OBOG「みなと」の現役大学生たちでした。開会宣言、フィールドアナウンサー、カメラマン、親睦会での司会進行、閉会宣言等々いろんな場面で盛り上げてくれました。現在も大学の短歌会等で歌を詠み続けている彼ら。来年はもっと運営に関わってもらえそうなそんな印象すらもちました。

現役高校生の短歌、ディベート力も年々質が高まっている中、OBOG「みなと」の力も加わり、これからの牧水・短歌甲子園がますます楽しみになってきました。更なる発展が期待できそうです。一度も見たことないとおっしゃる方、必見です。



OBOG「みなと」代表者より

私たち OBOG がかつて精一杯の言葉で思いを伝え合ったステージ。そこでキラキラと戦う高校生たちに胸が熱くなりました。大切なことを教えてくれた牧水・短歌甲子園に少しでも恩返しができるようこれからも OBOG は活動が続けていきたいと思います。